

通りの家 ~家の中心でコミュニケーションと思い出を育む家~



車出入り口側から見る



奥行きを感じさせるホール



メインアプローチ



家の中心のオープンスペース



こもり感をもつ居間

■ 背景

多世代で一緒に長い間生活するためには家族の関わりと自分一人の時間を作り出すことが重要だと考える。提案する住宅では、各部屋からは中央のオープンスペースへつながっている。これによってオープンスペースでは家族同士が関わることができ、その一方で各部屋では自分の時間を活用する。またこの家では各自の部屋のほかに南北のデッキや和室などがあることで自分の居場所をその時の気分によって変えられることができる。

■ 家族のストーリー

この家の家族構成は夫(36)、母(34)、長女(10)長男(5)、祖母(68)となっている。家族と祖母は元々離れて生活していたが都市部での子供たちの遊び場が限られて様々な経験をさせられないことや地域の人々の関わりが少なく疎外感を感じていた。また祖母と一緒に暮らしていた祖父が施設に入って家に一人になってしまったことがきっかけとなり5人が一緒に生活することを決めた。

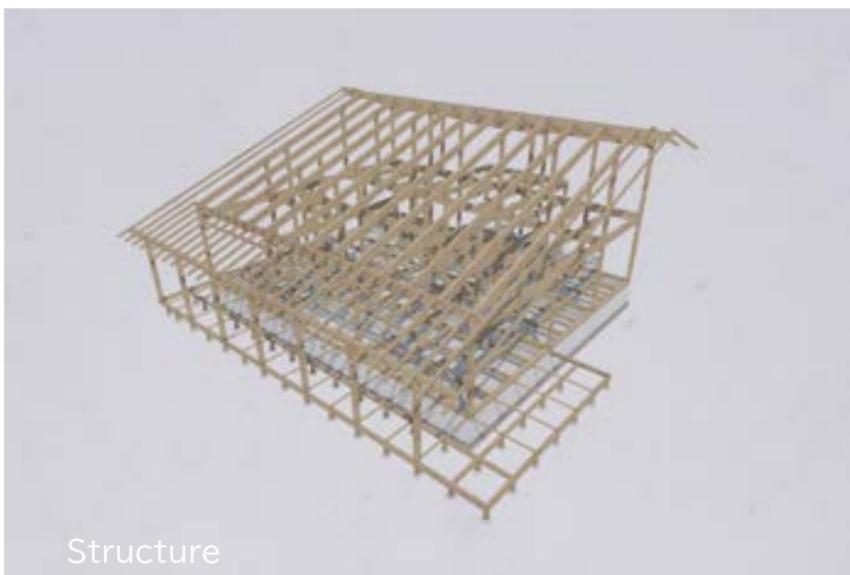
■ 敷地

敷地は京都府内の山里の集落にある。隣人と世間話をしたり育てた野菜をお互いにシェアしたりするように計画敷地では都市部と比べ周囲との関わり合いが強い。敷地は角地にあることから地域コミュニティの中心的になる可能性があると考えた。

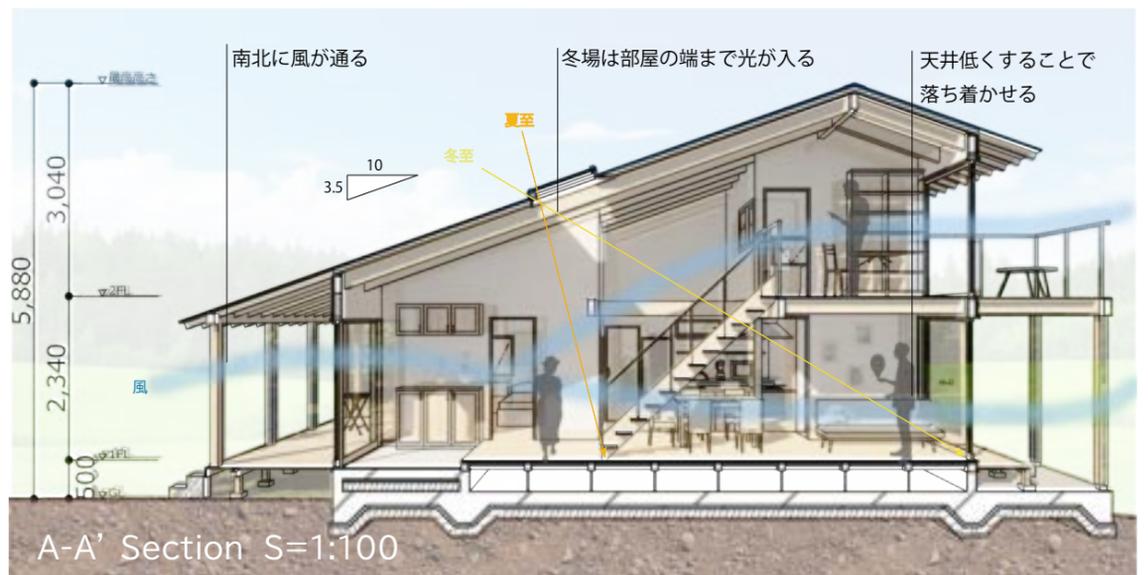


■ 構造計画・木材利用

在来軸組工法とした。構造材や外壁などに肌目がやや荒く経年変化が楽しめる特徴がある杉材を使い、住宅の家具や建具、床材などに肌目が美しく、良い香りがする特徴があるヒノキ材を使う。室内では柱や梁などの構造体を見せることで開放感や木の温かみを感じやすくさせる。また計画敷地は積雪が多いため屋根勾配を3.5寸にし雪を落とすやすくさせた。



Structure



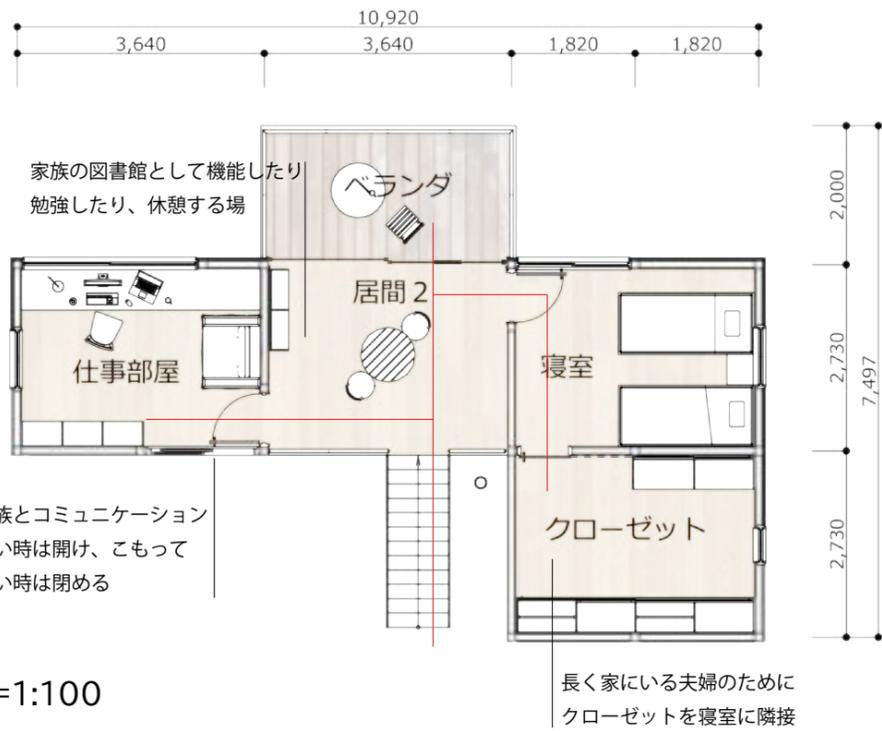
A-A' Section S=1:100



South Elevation S=1:100



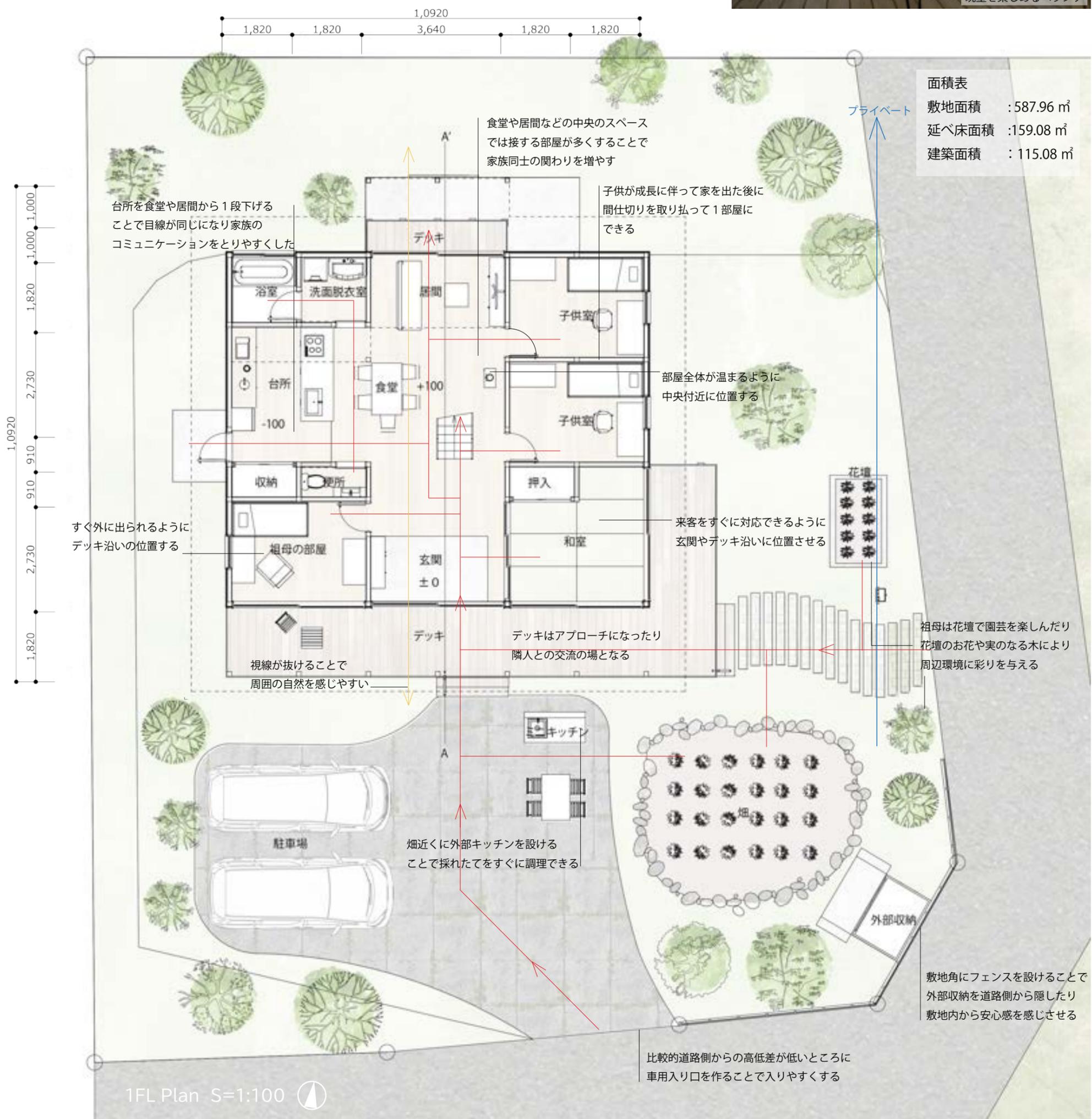
East Elevation S=1:100



2FL Plan S=1:100



長く家にいる夫婦のために
クローゼットを寝室に隣接



1FL Plan S=1:100

面積表

敷地面積	: 587.96 m ²
延べ床面積	: 159.08 m ²
建築面積	: 115.08 m ²

祖母は花壇で園芸を楽しんだり
花壇のお花や実のなる木により
周辺環境に彩りを与える

敷地角にフェンスを設けることで
外部収納を道路側から隠したり
敷地内から安心感を感じさせる

比較的道路側からの高低差が低いところに
車用入り口を作ることで入りやすくする